

牛久：学校周辺に見る自然

第52号 ひたち野うしく小

2021年1月24日発行

＜ 秋のみずべ公園 ～⑪自然のタネまき ＞

ひたち野うしく小4年生と歩いた秋のみずべ公園、今回は、植物の種子散布(自然のタネまき)です。植物の冬越し準備もいろいろありますが、その中の一つに、種子というカプセルの中で眠って冬を越し、春に発芽し成長するという方法があります。どのタネも親の植物の近くに落ちてしまったら、発芽した時の競争が激しくなりますね。なので、なるべく親から離れたところに、バラバラにまかれるような工夫があります。植物の種類によって、タネのまかれ方はいろいろです。



鳥が食べ、フンとして落とすことで種子を運ぶアキグミ(上左)、エノキ(上右)、ゴンズイ(中左)、コブシ(中右)、ヒサカキ(下左)、イシミカワ(下中)、ヨウシュヤマゴボウ(下右)。これらのタネは、赤や青など鳥に目だつ色をしている。

色鮮やかな実が並びましたね。これらは皆、鳥が食べて離れた別の場所でフンとして落とすことで種子が運ばれるタネたちです。「黒も目だつの？」と、不思議に思った子もいましたね？じつは、人間の目には見えない紫外線で目だっているのだそうですよ。



ネズミやカケスなどがかくしておいて、食べ残し(かくし忘れ?)から発芽し増えるというクヌギ(左上)、コナラ(右上)、シラカシ(左下)のどんぐり。

こちらは、どんぐりのなかま。ネズミや鳥のカケスなどがたくわえ、かくしておいた食べ残しやかくし忘れから発芽し、なかまを増やすといわれています。ただし、どんぐりにはタンニンという有害な成分も含まれていて、どこまで食べるか疑問です。



クリ(上2枚)とツバキ(左下)、エゴノキ(右下)のタネ。こちらもどんぐり同様、食べ残しやかくし忘れから増える。

クリも、たくさん実が落ちていましたね。学校にもあるツバキも実が開いて、種子が残っていました。エゴノキは時々登場していますが、種子を包む皮にはサポニンという有毒成分が含まれます。これらのタネは、誰が食べるのでしょうか？図書の本などで調べてみましょう。



タネの表面がぬれるとゼリー状になり、くつやタイヤなどにくっついて運ばれるオオバコ(上2枚)。タネからねばねばの液を出して、動物の毛皮などについて運ばれるケチヂミザサ(左下)。

こちらは、ひっついてタネが運ばれるなかま。オオバコは踏まれると、カプセルのような実のふたが取れて、種子が出てきます。その種子の表面はぬれるとゼリー状になり、くつの裏や車のタイヤなどにひっついて運ばれます。だからオオバコは、人や車の通り道に沿って生えているのですね。ケチヂミザサの場合は、自分でタネからねばねばの液を出して、動物の毛皮などにひっついて運ばれます。ズボンにつくと、なかなか取れなくて困ることもあります。その他、まだ熟していませんでしたが、フックで動物の毛皮などについて運ばれるタネをもつ、コセンダングサやセンダングサ、ヒカゲイノコヅチなども見られました。



最後に、風でタネが運ばれるなかま。タンポポやヒメガマなど、綿毛でふわふわと風に運ばれるものもありました。それらは、飛んでいるのを目にすることも多いですね。そこで今回は、翼をもって風に運ばれるものを紹介します。写真はイヌシデ。強い風がふくとタネが取れ、くるくると回りながらゆっくり落ちてきます。その間に、親から離れたところまで飛ばされてゆくのです。学校には、同じ運ばれ方をするイロハモミジがありますが、以外と遠くまで運ばれているのを見かけます。せのびして、高いところから落としてみましょう。

【理科支援員：宮内】

風でタネが運ばれるイヌシデ。よく似たアカシデもある。